

日本内分泌病理学会・理事会議事録

日 時：2011 年 11 月 22 日（火）17:45～19:30

場 所：ホテルオークラ東京 オークルーム（本館 2F）

出席者：成瀬光栄 理事長、寺本明、山田正三、笹野公伸、松野彰、島津章、田辺晶代、
戸田修二、覚道健一、加藤良平 の各理事、吉本勝彦、方波見卓行 の各監事、
長村義之 顧問、屋代隆 オブザーバー

欠席者：高見博、山下俊一 の各理事、（理事委任状提出 1 通）

議 題：

<審議事項>

1. 2010 年度決算、2011 年度見込み、2012 年度予算案の件
----- 笹野（財務）、成瀬（第 14 回会長）、吉本（監事）
2. 次次期（第 17 回、2013 年度）学術総会会長候補者の件-- 理事長
3. 名誉会員推薦の件 ----- 理事長
4. 功労評議員推薦の件 ----- 理事長
5. 新評議員推薦の件 ----- 理事長
6. 学会名称変更の件 ----- 理事長
7. コンサルテーションの件 ----- 覚道（広報）
8. ホームページ改善の件 ----- 覚道・屋代（広報）

<報告事項>

1. 研究賞の件 ----- 山田（第 15 回会長）
 - 1) 研究賞選考委員
 - 2) 研究賞受賞者
2. 第 16 回（2012 年度）学術総会の予告 ----- 笹野（第 16 回会長）
3. 第 86 回（2013 年度）日本内分泌学会学術総会のプログラム提案について
----- 吉本（P 委員）
4. 会費の長期未納者の取り扱いについて ----- 理事長
5. The 1st Korea-Japan Joint Slide Conference of Endocrine Pathologyについて
----- 加藤（企画学術）

冒頭、成瀬理事長より、理事出席者 10 名、理事委任状提出 1 通で会則（定款）条の
定足数を満たすことから、本理事会は成立する旨報告があり、引き続き同理事長の司会に
より議事進行が行なわれた。

審議事項

1. 2010 年度決算、2011 年度見込み、2012 年度予算案の件

まず笹野財務理事より、2010 年度一般会計の決算報告が行なわれた。その中で、収入の部において年会費の過年度未納分を一部徴収できたことにより予算額を上回ったこと、一方、支出の部については主に印刷費の支出減により、結果として 392,047 円の黒字となったことが報告された。次いで成瀬理事長（＝第 14 回会長）より、第 14 回学術総会決算について、有料参加者 85 名があり、約 280 万円規模の収支になったこと、また源泉税を納入済みであることが報告された。

引き続き吉本監事より、これらの決算報告に対し 2010 年度決算は適正に執行されているとの監査報告があり、審議の結果、2010 年度決算は全会一致で承認された。

笹野理事より、2011 年度見込みに関し、年会費収入が予算に達していないので協力者等への「会費納入働きかけ」が要請された。一方、支出の部においてホームページのデザイン変更や機能追加を予定しているため、予算を上回る出費になるので、収入予算額を達成しても 18 万円弱の赤字となる見込みであると報告された。

最後に、2012 年度予算案に関し、特に大きな支出予定はないので年会費収入予算を達成できれば、若干（1 万円未満）の赤字になると説明された。以上について審議の結果、2011 年度見込み及び 2012 年度予算案は全会一致で承認された。

2. 次次期（第 17 回、2013 年度）学術総会会長候補者の件

過去の会長経験者を参考に意見交換の結果、方波見監事を暫定候補とし、評議員会・総会に推薦することとした。

3. 名誉会員推薦の件

理事長より、名誉会員内規に照らして本年度の該当者はいないことが報告された。

4. 功労評議員推薦の件

理事長より、下記二名の評議員が功労評議員内規に該当するので推薦したいとの説明があり、全会一致で承認された。

山下 裕人（野口病院）

坂本 穆彦（杏林大学）

5. 新評議員推薦の件

理事長及び覚道理事より、中村美佐会員（大阪河崎リハビリテーション大学）を新評議員に推薦したいとの説明があり、申請書・業績目録等書面審議の結果、全会一致で承認された。

6. 学会名称変更の件

理事長より、日本臨床内分泌病理学会への名称変更提案に関し、これまで役員へのアンケート、平成 23 年 4 月開催の理事会での討議、パブリックコメントと言ったプロセスを踏んできたことが説明され、パブリックコメントでは反対意見がなかったことが報告された。これらの経過を踏まえ意見交換された結果、日本病理学会の専門医単位付与学会としての認定を受けるべく同学会に申請を行うこととし、その際学会の名称変更が影響するか否かを確認後、継続審議とすることとした。日本病理学会への申請、確認は笹野理事が担当する。

7. コンサルテーションの件

覚道広報理事より、臨床医、病理医を対象として、内分泌領域の病理診断、細胞診断について病理診断のコンサルテーション、セコンドオピニオンの便宜を、日本内分泌学会会員に提供する目的で、コンサルテーション委員会規約（案）が提案された。原則として共同研究的な性格でありコンサルテーション診断料は無料であること、依頼者とコンサルタント間で直接やり取りすることが確認され、大筋で了承された。

規約（案）には「診断の責任」や「相談をお受けできない場合」についても記載されているが、さらにこれらの免責事項をつめることとし、加藤理事が協力することになった。また、コンサルテーション担当委員と担当分野は下記の通り内諾を得ているが、担当者 1 名の分野については増員することとし、適任者の推薦が要望された。

- 1) 下垂体：長村義之（国際医療福祉大学）、井下尚子（虎の門病院）
- 2) 副腎皮質：笹野公伸（東北大学）、重松和人（日赤長崎原爆記念病院）
- 3) パラガングリオン：木村伯子（国立函館病院）
- 4) 甲状腺：加藤良平（山梨大学）、覚道健一（神戸常盤大学）
- 5) 副甲状腺：亀山香織（慶応義塾大学）
- 6) 内分泌臓器：大池信之（昭和大学）
- 7) 内分泌消化管：岩渕三哉（新潟大学）
- 8) 内分泌肺腫瘍：元井紀子（がん研究会）
- 9) 遺伝性内分泌腫瘍：覚道健一（神戸常盤大学）

8. ホームページ改善の件

屋代評議員より、(1) トップをポータル（玄関）ページとし、一般向け、会員向け、組織と活動などの項目に振り分けること、(2) 一般会員からの内分泌病理に関する専門家への質問・回答の掲示板の機能をもたすこと、(3) 頻繁に更新する必要のあるページは、業者管理の部分と分けて、委員が管理すること、(4) サイトの管理者は、ホームページ委員（長）とし、全権を委任することの提案があり、(2) を除いて、また (4) を一部修正して承認された。

なお、この機会に広報委員会を設立することとし、委員長を覚道広報理事、ホームページ委員を屋代評議員に委嘱することが承認された。上記提案（4）については覚道委員長が管理責任を持ち、屋代委員が実務を担当することとなった。

報告事項

1. 研究賞の件

1) 研究賞選考委員

山田選考委員長（第15回会長）より、先に持ち回り理事会で承認された選考委員3名；成瀬理事長、覚道理事、吉本監事の紹介があった。

2) 研究賞受賞者

同じく、今回の下記受賞者について報告があった。

なお、会長裁量で「佐野壽昭記念賞」を設けたが、これは今後も継続することが合意された。これに伴い、名称、選考委員会、受賞者の対象範囲（年齢等）、その他詳細要項について庶務委員会で内規（案）を作成し、理事会に諮ることとした。

<最優秀賞>

館野 透（Department of laboratory medicine & pathobiology, University of Toronto, Canada）

「The FGFR4 Transmembrane Polymorphism Promotes Preferential Src Activation and Mitochondrial Serine Phosphorylation of STAT3 to Facilitate Pituitary Growth Hormone Tumorigenesis.」

<奨励賞（研究部門）>

鈕 東峰（山梨大学医学部人体病理学）

「甲状腺癌における Runx2 の高発現は浸潤能を制御している」

笠島 敦子（東北大学病院病理部）

「膵神経内分泌腫瘍の新 WHO 分類と病理組織学諸的因子の解析」

<奨励賞（症例部門）>

難波 多挙（京都医療センター内分泌代謝科）

「アルドステロン産生腺腫における CYP11B2 および CYP11B1 免疫染色の発現動態解析と診断的意義に関する検討」

<佐野壽昭記念賞>

田宮 寛之（虎の門病院内分泌代謝科）

「サイレントゴナドトロピン産生下垂体腺腫：小児期発症の1例と非機能性下垂体腺腫586例における年齢別頻度の検討」

2. 第16回(2012年度)学術総会の予告

笹野理事(第16回会長)より、2012年10月11日(木曜日)～12日(金曜日)仙台市青葉区良陵会館記念ホール、10月13日(土曜日)東北大学医学部顕微鏡実習室(スライドセミナー)において開催するとの予告が行なわれた。内容の詳細は追って、案内される。

なお、理事会は10月11日(木曜日)午前11時くらいから、学会の開始は午後1時からとの紹介があった。

3. 第86回(2013年度)日本内分泌学会学術総会のプログラム提案について

吉本監事(本学会代表プログラム委員)より、会員アンケートで集約した下記のテーマをプログラム委員会に提案したいとの報告があり、了承された。

シンポジウム(プログラム案は、フォント小にした)

1. 下垂体癌・異型性下垂体腺腫の病態と治療 日本間脳下垂体腫瘍学会と協同企画(提案:松野彰先生)

- 演者 1) 廣畑倫生(東京大学脳神経外科)
2) 西岡宏(虎の門病院間脳下垂体外科)
3) 島津 章(国立病院機構京都医療センター臨床研究センター)
座長:長村義之(国際医療福祉大学三田病院病理診断センター)
寺本明(日本医科大学脳神経外科)

2. 副腎腫瘍の良悪性と臨床予後はどこまで現在分かるのか?(提案:笹野公伸先生)

- 演者 1) 笹野公伸(東北大学病理):緒言
2) 沖隆(浜松医大内科):ホルモンデータからのアプローチ
3) 楯靖(独協医科大学放射線科):画像診断でどこまで分かるのか?
4) 渡邊みか(東北大学病理部):褐色細胞腫の予後はどこまで分かるのか?
5) Mauro Papotti(University of Turin, Turin, Italy):
副腎皮質腫瘍の予後因子と治療標的因子 update - ENSAT(European Network for the study of adrenal tumors)からの報告一
座長:笹野公伸(東北大学病理)
沖隆(浜松医大内科)

3. 難治性内分泌疾患の現状と今後の展望(提案:成瀬光栄先生)

- 演者 1) 大磯ユタカ(名古屋大学):難治性下垂体疾患
2) 赤水尚史(和歌山医大):難治性甲状腺疾患
3) 成瀬光栄(京都医療センター):難治性副腎疾患
4) 加藤規弘(国立国際医療センター):世界の希少疾患対策
座長:猿田享男(慶応大学名誉教授)
柳瀬敏夫(福岡大学)

趣旨:現在進められている内分泌難治性疾患の最新の研究を発表、グローバルな視点での今後の対策を展望する

4. IgG4 甲状腺炎

- 演者 1) 西原永潤(隈病院内科)
2) 田上哲也(京都医療センター内科)
3) 覚道健一(神戸常盤大学)
座長:覚道健一(神戸常盤大学)
成瀬光栄(京都医療センター内分泌代謝高血圧研究部)

教育講演

1. 下垂体形態学に関する新しい概念(提案:山田正三先生)

- 演者:屋代隆(自治医科大学解剖)
座長:山田正三(虎の門病院間脳下垂体外科)

2. 質量顕微鏡を用いた病態解析(提案:松野彰先生)

- 演者:瀬藤光利(浜松医科大学分子イメージング先端研究センター)
座長:松野彰(帝京大学ちば総合医療センター脳神経外科)

3. がん幹細胞とは (提案：吉本)
演者：佐谷秀行（慶応大学先端研）
4. 神経内分泌腫瘍の予後因子と治療標的治療 update - ENET (European Neuroendocrine Tumor Society)からの報告 (提案：笹野公伸先生)
演者：Mauro Papotti（University of Turin, Turin, Italy）
5. 次世代ゲノム研究の最前線 (提案：吉本)
演者：油谷浩幸（東京大学先端科学技術センター）
6. 原発性副甲状腺機能亢進症の臨床：診断、手術、病理まで (提案：高見博先生)
演者：高見博（伊藤病院、帝京大学外科名誉・客員教授）
座長：吉本勝彦（徳島大学分子薬理学）
7. ES細胞から下垂体を作る (提案：吉本)
演者：笹井芳樹（理研発生・再生科学総合研究センター）
8. 腹腔鏡下副腎手術導入 20 年の現状と展望 (提案：成瀬光栄先生)
演者：松田公志（関西医科大学 泌尿器科）
趣旨：導入後 20 年を経過し多くの経験が集積された副腎手術の現状と問題点、今後の展望につき、我が国の第一人者に講演頂く。
9. 甲状腺の稀な腫瘍の病理
演者：加藤良平（山梨大学病理）
座長：覚道健一（神戸常盤大学）
10. 甲状腺腫瘍診療と細胞診断
演者：覚道健一（神戸常盤大学）
座長：加藤良平（山梨大学病理）
11. 時計遺伝子とアルドステロン症
演者：岡村均（京都大学薬学研究科）
座長：成瀬光栄（国立病院機構京都医療センター）

クリニカルアワー

1. 成人成長ホルモン欠損症の問題点と治療 (提案：松野彰先生)
演者 1) 肥塚直美（東京女子医大内分泌内科）
2) 高野幸路（東京大学腎臓内分泌内科）
3) 富永篤（広島大学脳神経外科）
座長：東條克能（東京慈恵医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科）
松野彰（帝京大学ちば総合医療センター脳神経外科）
2. MEN1 の診断と治療—クリニカルパスの進め方 (提案：木村伯子先生)
演者 1) 吉本勝彦（徳島大学分子薬理学）：腫瘍発生の overview
2) 金原市郎（函館市医師会病院内科）：病態の問題点
3) 木村伯子（国立病院機構函館病院病因病態研究室）：腫瘍形態の特徴
4) 佐々木巖（東北大学外科）：膵・十二指腸部病変
5) 池田秀敏（南東北病院脳外科）：下垂体病変
6) 内野真也（野口病院外科）：胸部病変（副甲状腺、肺・胸腺を含む）
座長：吉本勝彦（徳島大学分子薬理学）
今村正之（大阪府済生会野江病院外科）
3. 原発性アルドステロン症診療の新展開 (提案：成瀬光栄先生)
演者 1) 柴田洋孝（慶応大学）：薬物治療と手術治療の比較
2) 大村昌夫（横浜労災病院）：微小腺腫による PA の臨床
3) 佐藤文俊（東北大学）：副腎垂全摘例の有効性と長期予後
4) 田辺晶代（東京女子医大）：診療指針の課題と改訂のポイント
座長：成瀬光栄（京都医療センター）
西川哲男（横浜労災病院）
趣旨：日常診療で少なからず経験される PA の診療面における新たな展開を紹介する
4. 悪性褐色細胞腫の診断と治療をめぐる新展開 (提案：成瀬光栄先生)
演者 1) 絹谷清剛（金沢大学核医学）：わが国の MIBG 内照射治療の現状
2) 竹越一博（筑波大学臨床病理）：原因遺伝子探査の動向
3) 木村伯子（NHO 函館医療センター）：病理組織集中解析の意義
4) 田辺晶代（東京女子医大第二内科）：化学療法・分子標的治療の動向
座長：田辺晶代（東京女子医大第二内科）
方波見卓行（聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院内分泌代謝科）

5. 甲状腺結節診療ガイドラインと細胞診

演者 1) 亀山香織（慶応大学病理）
2) 広川満良（隈病院病理）
3) 覚道健一（神戸常盤大学）
座長：加藤良平（山梨大学病理）
中村浩淑（浜松医大内科）

4. 会費の長期未納者の取り扱いについて

事務局から提出された長期未納者リストに基づいて、役員から会費納入を働きかけることとした。一方で、一定期間後に事務局から督促も再度実施する。

5. The 1st Korea-Japan Joint Slide Conference of Endocrine Pathologyについて

加藤企画学術理事（国際担当）から、標記の第1回学会が2011年10月29日に韓国で開催され成功裏に終わったことが報告された。また、第2回は2013年に日本で開催されるとの予告があった。

以上

（記録：事務局・岸、校閲：成瀬理事長、山田庶務筆頭理事、笹野財務筆頭理事、
覚道広報筆頭理事、加藤企画学術筆頭理事）